



山本 光晴

町長の所信表明について

学校再編

問 早急に保護者の意向調査をするともに、児童生徒の思いも聞いていただきたい。

答 2月中旬ごろまでにある程度の方向性を打ち出さなければいけないと考える。

意向の確認は、保護者を中心にまた保護者を通じて子ども意見を聞いていきたい。

児童生徒への説明は、教育委員会と協議の上、学校長を通じた説明をしていきたい。

1年延びるというぐらいの開校で何とかいきたい。

観光活性化の方策

問 観光で訪れる方のための環境整備として、トイレと駐車場が大事である。

特にトイレの設置について考えると現在でも民

間のお寺などのトイレを利用させてもらっている

がペーパーや洗剤などの現物給付はどうか。

交流・体験型の観光として、物産センターでの加工品の体験や、民間とタイアップしたグリーンツーリズムなどは。

答 水道、トイレは必要と考えるので検討していきたい。

現物給付は検討している。

物産センターに限らず民間で活用できるスペースや施設の利用もいいのではないかと。



交流体験型の観光地ではこのような看板も



観光活性化のためにトイレの設置を

地域包括ケアシステムの構築

問 健康づくりとして、ヘルスアップ講座やウォーキング講座などの事業をしているが、ウォーキングのコースを設定して、看板を設置し、住民に周知アピールすることで健康増進を図るべきと思うが。

答 健康寿命の阻害要因を減らす意味で予防にウェイトをおいた施策をしていきたい。

一般質問



岡本 榮三郎

一、新町長の「所信表明」について 二、新町長の「選挙公約」マニフェストについて

新町長の所信表明について

問 下水道事業について町長は「ゆるやかに進めて行きたい」と述べたが、府内43市町村中、能勢町の普及率は最下位である。公共下水道も「地域の90%の接続希望者がいない」と工事をしていないという

ことでは工事は進まない。300mでも500mでも接続希望件数により、隣接の管渠工事を着工する手法を取り入れることが出来ないか。

答 現在平成23年度から四期計画（7年）で東山辺、平野地区を進めることにしている。おっしゃることは理解できるが、財政状況はなかなか厳しい。

問 常備消防について、私は2年前の平成22年6月議会で前町長に、府内43の市町村で消防の非常備団体が能勢町一町のみであることを指摘して消

防の広域化を訴えた。本年9月議会で前町長は平成26年4月から常備消防の委託開始の説明があった。しかし新町長になって「今後は十分検討して」と大きく後退した所信を述べたが急に変わった理由は。

答 予算面と現在の消防団との関係をもう一度整理して、具体的には平成27年あたりにスタート出来るような形で進めていきたい。

新町長の「選挙公約」マニフェストについて

問 農工商、観光「能勢の産業の活性化を述べているが、これは農業の「6次産業化を構想しているのか、中小企業者と農林業者が連携して行う「農工商等連携支援促進法」までを活用して能勢の産業の活性化を考えているのか、新町長の地域を改革するデザイン行政の構想を聞く。

答 農業を基幹産業として能勢の自然資源を利用した形の観光化、さらに商業や工業というものをまぜながら、農工商、観光といった能勢の産業そのものの連携のもとに活性化を図っていきたい。

問 人口減少をストップし、「現在の市街化調整区域の線引きを廃止する」とマニフェストで述べているが、その具体的な方向性とビジョン（構想）を聞く。

答 大阪府の「北部大阪都市計画区域」の決定が大きな壁となつて、非常に困難であるという認識を持っている。地区計画の制度を活用して、良好な土地利用、開発の誘導策を練っていきたい。